

「抜けた乳歯カード・改良型 (1)」

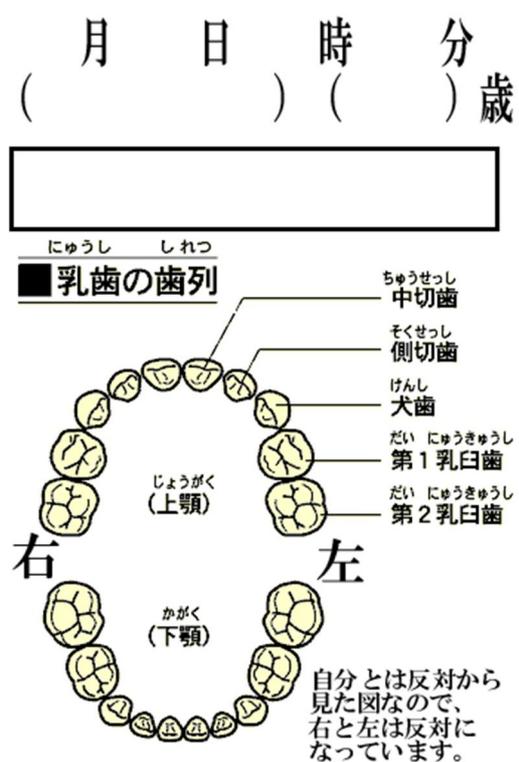
お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

小学校で子どもたちと過ごしていると、「先生、歯が抜けました!」という「訴え」がよくある。授業中に突然「今抜けました!」と言う子どももいれば、「きのう、夕ご飯の時に抜けました」と、抜けた歯を持って来る子どももいる。特に2年生、3年生に多い。「だからどうした!？」と冷たく追い払ってはいけない。子どもにとって「乳歯が抜ける」ということは、一大事なのである。

私はそのままポケットに入れて持ち帰らせるのがどうも気に入らないので、ちょっとしたカードと一緒にチャック付きのポリ袋に入れて持たせることにしている。

歯科医(観察者)から見ると、右側の歯は左側になるので、図では左右が逆転している。これもわかりにくくしている原因だ。そこで、私は「抜けた乳歯カード」の改良型を作ることにした。

月 日 時 分
なまえ () 歳



抜けた乳歯を持ってきた子どもには、このカードの歯の位置に○をつけて、乳歯の名称を記入して、抜けた歯と一緒に袋に入れてあげるのだ。これは「好評」だったが、問題点もあった。この図と実際の自分の歯の関係が、今一つよく理解できない子どもが多いのだ。図は、口を大きく開いた時に、本人側ではなく、本人を見る側から見た歯列である。つまり歯科医が見た乳歯の並び方、ということになる。

これが、その「改良型カード」である。大きく口を開けた子どもの顔に、乳歯列を入れたイラストにしてみた。男の子にも女の子にも見えるような顔にしてある。これなら、自分のどの歯が抜けたのか、ずっとイメージしやすいだろう。

乳歯が抜けそうになっている子どもは、口をあけて、その歯を指さしながら「へんへー、こお歯ウラウラ。もうふぐ、うけそう(訳;先生、この歯グラグラ。もうすぐ、抜けそう)」と言いに来る。さっそくその子に「改良型試作品」を見せたら、「ワー、いいいいな、はやく抜けないかな〜!」と喜んでいた。ところが乳歯というのは、抜けそうでなかなか抜けない。